

# 「悪石島小・中学校の悪石島のボゼ（盆踊り）伝承活動の取組」

## 1 学校名

十島村立悪石島小・中学校

## 2 学年・人数

小学生 7 名（2 年 3 人，4 年 2 人，5 年 1 人，6 年 1 人）

中学生 3 名（1 年 1 人，2 年 1 人，3 年 1 人） 計 10 人

## 3 日時・場所

### （1）日時

平成 29 年 8 月 28 日～9 月 6 日（旧暦 7 月 7 日～16 日）

午後 8 時 30 分～午後 9 時 30 分，午後 4 時～午後 6 時，午後 3 時 30 分～  
午後 5 時 30 分

### （2）場所

悪石島公民館・トンチ（殿地）・テラ（墓地）等

- ・旧暦 7 月 7 日：七夕 夜の盆踊り始め
- ・旧暦 7 月 13 日：花たて打ち
- ・旧暦 7 月 14 日：水祭り 盆踊り（テラ→公民館）
- ・旧暦 7 月 15 日：水祭り 盆踊り（公民館→テラ）
- ・旧暦 7 月 16 日：ボゼ祭り

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

### （1）名称

あくせきじま  
悪石島のボゼ（国指定重要無形民俗文化財 平成 29 年 3 月 3 日）

### （2）内容

水祭り，精霊迎え，精霊送り等の一連の盆行事

### （3）特徴

盆踊りで行われる踊りは，開催日と場所を決め，決まった種類の踊りが踊られる。代々口伝のみで伝えられ受け継がれてきている。

盆踊りは男性のみで踊り，鉦に合わせて物静かに踊る。

旧暦 7 月 15 日の夜には，大二才（オーニサイ）（壮年）と小二才（コニサイ）（青年）とに分かれ，トンチ（殿地）を出発点に小二才組が先に出発し，家々を各組別々の踊りをしながら回る。最後は，公民館に集合し，全員そろって踊る。

旧暦 7 月 16 日には，テラに集まり盆踊りを行い，その後公民館に移動して再び盆踊りが行われる。ここで，島民による口上が述べられ，呼び出しと太鼓の音に導かれ 3 体のボゼが出現する。ボゼが帰った後，最後の踊り（ニワモドシ）が行われる。

### （4）ボゼについて

ボゼは盆の終わりに現れ盆行事の幕を引くことで，仏を拝む盆行事に熱中した人々を，太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し，転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは，盆踊りの輪をくずして盆踊りを終わらせ，体中や持っているマラ棒の先端についた赤土を人々に擦り付

ける。ボゼには、盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払うものとする説もある。

## 5 保存会や地域との連携の具体

盆踊りは、先祖の霊や神・仏に奉納するものとされているので、お盆以外に踊られることはなく、伝承も口伝のみとなっている。そのため初めて参加する者は、実際の踊りの中に入り、島民が踊っている姿を参考に、見よう見まねで覚えるしかなかった。しかし、伝統をしっかりと引き継ぎ、伝えていこうとの思いから「盆踊り保存会」が発足した。学校もその一端を担えるよう協力・連携していきたいと考えている。

ボゼの登場する最終日は、ボゼ特別便により多くの観光客や取材陣が訪れ、大きな賑わいをみせる。教職員も、島民の一員として積極的に参加し、真剣に取り組んでいる。この時期は夏季休業中であることが多いが、よほどのことがない限り、全職員帰島し参加をしている。踊りは男性のみであるが、女性は各家庭での御盆行事や食事の準備等で大忙しの中、踊りの合いの手などで参加し、場を盛り上げてくれる。まさに島が一丸となり取り組む姿から、郷土の伝統文化への誇りと熱い思いを知ることができる。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

前述したが、伝統を引き継いでいこうという思いから、盆踊り保存会が発足した。その取組として、盆踊り期間中に、子どもたちや教職員、Iターン者への講習会が行われている。今までは、見よう見まねで覚えるしかなかった踊りだが、講習会で、唄われる歌詞の意味や、踊りの一挙手一投足について細やかな指導がなされている。次の世代へと伝統を引き継ぎ、守っていくうえで、大変有意義であると考えます。子どもたちも楽しく参加し、島の伝統を引き継ぐことの大切さを実感している。

## 7 取組の様子



悪石島のボゼ



悪石島のボゼ



悪石島の盆踊り

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

講習会で、盆踊りの動きについて詳しく知ることができ、一つ一つの動きを今まで以上に大事にしていきたいと思った。たくさんの人から声もかけられ、うれしかった。学んだことを、しっかりと引き継ぎたい。

### 【保存会】

昔から当たり前にしてきたことが、社会的に評価されていることがうれしい。その伝統を、次の世代にしっかりと引き継ぐことが重要であると考えてる。

悪石島の伝統が途絶えないように、若い世代への橋渡し役として、島民一

丸となって頑張りたい。